

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	関係法規・制度		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			必須科目			理容科	1～2年次	30時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次4月～2年次2月	時限		資格対応	国家試験			
担当教員	山川					講師の実務経験	3年以上	
授業概要	社会で行われる様々な法律行為の理解と、美容所に勤める場合や経営する場合に必要な関係法規・制度について理解する							
授業方法	講義～確認テスト～期末試験							
授業目標	思考・判断・表現		各章の確認テスト					
	関心・意欲・態度		授業出席・課題提出					
	知識・理解		学期ごとの期末テスト					
	備考							
評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
	法の役割	確認テスト及び期末試験	25	25	50	100		
	衛生行政	確認テスト及び期末試験	25	25	50	100		
	理容師法	確認テスト及び期末試験	25	25	50	100		
	関連法規	確認テスト及び期末試験	25	25	50	100		
	合計		100	100	200			
評価の表示	国家試験の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する		100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0
			5段階評価	5	4	3	2	1
テキスト・教材	日本理容美容教育センター関係法規制度テキスト、ワークブック							
その他参考書	担当教員作成のポイント集及び問題集、参考資料							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1～5回、4月～7月	法制度の概要（法の形式・衛生法規の概要・美容師法、理容師法と付属法令）の理解							
6回～8回、10月～12月	衛生行政の概要（衛生行政の意義と歴史・衛生行政の分類と生活衛生行政の内容・衛生行政を担う行政機関）の理解							
9回～10回、1月・2月	理容師法、美容師法（目的・用語の定義・美容師に関する規定・美容所に関する規定・立ち入り検査・違反者に対する行政処分・罰則）の理解							
11回・12回、5月・6月	関連法規（理美容業の運営に関する法律・理美容業の衛生に関する法律・理美容業の消費者保護に関する法律）の理解							
13回・10月	国家試験対策問題（過去問題を中心に国家試験の傾向と対策を行う）							
14回・15回、1月・2月	国家試験対策問題（国家試験の傾向と対策を行う）							
備考								
時間外での学習								
講師の実務経験と授業の関係	衛生行政勤務の経験を活かし、現在の衛生行政における法規制を含め、理容師として必要な法律についての講義を行う。理・美容師の仕事は国民の衛生に関することなので行政機関による指導のもとで法令を守り理・美容業を行うよう助言をし、法令を守る理・美容師の育成をしていく。							
備考								

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	衛生管理		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			必須科目			理容科	1～2年次	90時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次5月～2年次2月	時限		資格対応	国家試験			

担当教員	下枝、下澤	講師の実務経験	3年以上
------	-------	---------	------

授業概要	感染症についての的確な知識・技能、感染を防止する消毒と業務との論理的な理解をし公衆衛生の向上に努める		
授業方法	講義～確認テスト～期末試験		
授業目標	思考・判断・表現	各章の確認テスト	
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出	
	知識・理解	学期ごとの期末テスト	
	備考		

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)				
		公衆衛生		25	25	50	100			
	感染症		25	25	50	100				
	衛生管理技術		25	25	50	100				
	消毒法		25	25	50	100				
	合計		100	100	200					
評価の表示	国家試験の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する									
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する		100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0		
			5段階評価	5	4	3	2	1		

テキスト・教材	日本理容美容教育センター衛生法規テキスト、ワークブック
その他参考書	担当教員作成のポイント集及び問題集、参考資料

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～8回、4月～7月	公衆衛生・環境衛生
9回～18回、10月～12月	感染症
19回～25回、1月～2月	衛生管理技術
26～31回、5月～6月	消毒法
32～41回・9～12月	国家試験対策問題（過去問題を中心に国家試験の傾向と対策を行う）
42～45回、2月	国家試験対策問題（国家試験の傾向と対策を行う）
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授業の関係	衛生行政勤務と、薬剤師の経験を活かし、社会の中で求められている衛生管理の重要性、理・美容師として必要な衛生管理、衛生行政についての講義を行う。特に理・美容師の仕事上、必要な衛生管理、環境衛生、感染症予防への理解を深めさせ、消毒の重要性を伝えていく。
備考	

松本理容美容  
専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	理容保健		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			必須科目			理容科	1～2年次	90時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次5月～2年次2月	時限		資格対応	国家試験			

担当教員	高山、永田					講師の実務経験	3年以上
------	-------	--	--	--	--	---------	------

授業概要	美容師として必要な、頭頸部の構造や機能について深い知識を得る						
授業方法	講義～確認テスト～期末試験						
授業目標	思考・判断・表現	各章の確認テスト					
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出					
	知識・理解	学期ごとの期末テスト					
	備考						

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
			頭頸部・骨格・筋肉・神経・感覚器	25	25	50	100
		血液循環・呼吸器・消化器	25	25	50	100	
		皮膚と皮膚付属器官の構造、生理機能、神経系	25	25	50	100	
		皮膚と皮膚付属器官の保健と疾病	25	25	50	100	
	合計		100	100	200		

評価の表示	国家試験の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する						
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0
		5段階評定	5	4	3	2	1

テキスト・教材	日本理容美容教育センター美容保健テキスト、ワークブック
その他参考書	担当教員作成のポイント集及び問題集、参考資料

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～5回、4月～7月	人体の構造及び機能（頭頸部・骨格・筋肉・神経・感覚器）
6回～8回、10月～12月	人体の構造及び機能（血液循環・呼吸器・消化器）
9回～10回、1月～2月	皮膚科学（皮膚と皮膚付属器官の構造、生理機能、神経系）
11回・12回、5月・6月	皮膚科学（皮膚と皮膚付属器官の保健と疾病）
13回・10月	国家試験対策問題（過去問題を中心に国家試験の傾向と対策を行う）
14回・15回、1月～2月	国家試験対策問題（国家試験の傾向と対策を行う）
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授業の関係	薬剤師、看護師としての経験の中で、使用していく薬品の影響がある皮膚構造、毛髪への理解を深め、理・美容師として必要な人体・皮膚科学についての講義を行う。特に皮膚、毛髪においては理美容室の現場で、薬品トラブル等もあるため、皮膚構造等、しっかり理解させていく
備考	

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	化粧品化学		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			必須科目			理容科	1～2年次	60時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次5月～2年次2月	時限			資格対応	国家試験		

担当教員	唐木・長田				講師の実務経験	3年以上
------	-------	--	--	--	---------	------

授業概要	美容師としての化粧品の性状や使い分け、社会的な意義や法的根拠、安全性について学び、公衆衛生に資する知識を身に付ける		
授業方法	講義～確認テスト～期末試験		
授業目標	思考・判断・表現	各章の確認テスト	
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出	
	知識・理解	学期ごとの期末テスト	
	備考		

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
		化粧品概要 確認テスト及び期末試験		25	25	50	100
	皮膚の化粧品 確認テスト及び期末試験		25	25	50	100	
	頭皮・毛髪の化粧品確認テスト及び期末試験		25	25	50	100	
	基礎科学 確認テスト及び期末試験		25	25	50	100	
	合計		100	100	200		

評価の表示	国家試験の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評価	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	日本理容美容教育センター化粧品化学テキスト、ワークブック
その他参考書	担当教員作成のポイント集及び問題集、参考資料

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～6回、4月～7月	化粧品概要・化粧品用原料（化粧品の社会的意義・化粧品の安全性と取扱い・様々な技術の化粧品原料など）の理解
7回～16回、10月～12月	基礎化粧品・メイクアップ用化粧品（皮膚の化粧品）の理解
17回～20回、1月～2月	頭皮・毛髪用化粧品、芳香製品と特殊化粧品の理解
21～24回、5～7月	化粧品化学を理解するための基礎科学
25～29回・10～12月	国家試験対策問題（過去問題を中心に国家試験の傾向と対策を行う）
30回、2月	国家試験対策問題（国家試験の傾向と対策を行う）
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授業の関係	理科教員、薬剤師の経験の中で培った、化学的薬品の知識に基づき、理容師として必要な化粧品化学についての講義を行う。化粧品の原料や使用方法、化粧品の社会的意義や法的根拠、製品の安全性などを理解することで、公衆衛生に資する理容師の育成に役立つ。
備考	

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	運営管理		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			必須科目			理容科	1～2年次	30時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次5月～2年次2月	時限		資格対応	国家試験			

担当教員	佐々木	講師の実務経験	3年以上
------	-----	---------	------

授業概要	経営者の考え方や経営者が果たす責任、顧客を満足させるサービスとは何か、それをどう実現するかについて学ぶ		
授業方法	講義～確認テスト～期末試験		
授業目標	思考・判断・表現	各章の確認テスト	
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出	
	知識・理解	学期ごとの期末テスト	
	備考		

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
		経営者の視点(経営とは・理美容の経営)		25	25	50	100	
	経営者の視点(資金の管理)		25	25	50	100		
	従業員としての視点		25	25	50	100		
	顧客のために		25	25	50	100		
	合計		100	100	200			

評価の表示	国家試験の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評定	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	日本理容美容教育センター運営管理テキスト、ワークブック
その他参考書	担当教員作成のポイント集及び問題集、参考資料

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～3回、5月・6月	経営が必要とされる理由、経営資源と経営戦略
4回～8回、10月～12月	資金の管理(収支と損益、会計の考え方、コストの管理、税金について)
9回・10回、1月・2月	人という資源、人の能力を高める、健全・安全な職場、社会保険、キャリアプランの重要性
11回、6月	顧客のために(マーケティング、接客について、接客の実践)
12～14回・10～12月	国家試験対策問題(予想問題を中心に国家試験の傾向と対策を行う)
15回、2月	国家試験対策問題(国家試験の傾向と対策を行う)
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授業の関係	社会科教師の経験により、社会の動向や競争の中で変化していくなか、店を守り発展していく理美容の経営について講義を行う。顧客や社会のために仕事を担う責任についてより有能で活躍できる理容師の育成を目的とする。
備考	

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	文化論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			必須科目			理容科	1～2年次	60時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次4月～2年次2月	時限		資格対応	国家試験			

担当教員	百瀬・加藤・麻和	講師の実務経験	3年以上
------	----------	---------	------

授業概要	歴史の中で髪型、化粧、服装の変遷と流行を時代背景と結びつけて学ぶ。流行のメカニズムを知り、デザインを起こす一助として理解する。		
授業方法	講義～確認テスト～期末試験		
授業目標	思考・判断・表現	各章の確認テスト	
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出	
	知識・理解	学期ごとの期末テスト	
	備考		

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	理容業の歴史			25	25	50	100
ファッション史日本編			25	25	50	100	
ファッション史西洋編			25	25	50	100	
礼装の種類			25	25	50	100	
合計			100	100	200		

評価の表示	国家試験の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
-------	-----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評定	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	日本理容美容教育センター美容文化論テキスト、ワークブック
その他参考書	担当教員作成のポイント集及び問題集、参考資料

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～5回、4月～7月	日本の理容業・美容業の歴史(江戸～ 近代～ 現代～)
6回～8回、10月～12月	ファッション文化史 日本編
9回～10回、1月・2月	ファッション文化史 西洋編
11回・12回、5月・6月	礼装の種類
13回・10月	国家試験対策問題（予想問題を中心に国家試験の傾向と対策を行う）
14回・15回、1月・2月	国家試験対策問題（国家試験の傾向と対策を行う）
備考	

時間外での学習	国家試験課目のため、見返りプリント等で復習。
講師の実務経験と授業の関係	免許取得後サロン従事、文化論教員免許を取得、美容師としての経験を活かし授業内容に反映させ展開する。
備考	

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	理容技術理論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			必須科目			理容科	1～2年次	150時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次4月～2年次2月	時限		資格対応	国家試験			

担当教員	加藤邦美、桐山美奈・麻和真美				講師の実務経験	3年以上
------	----------------	--	--	--	---------	------

授業概要	理容技術の科学的根拠や、系統に沿った理論を正しく理解する		
授業方法	講義～確認テスト～期末試験		
授業目標	思考・判断・表現	各章の確認テスト	
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出	
	知識・理解	学期ごとの期末テスト	
	備考		

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)
		理容用具・シャンプー・ヘアデザイン		25	25	50
	カットティング・パーマメントウェービング・セットティング		25	25	50	100
	ヘアカラー・エステティック・ネイル		25	25	50	100
	ヘアセットティング・アイアニング		25	25	50	100
	合計		100	100	200	

評価の表示	国家試験の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する						
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0
		5段階評定	5	4	3	2	1

テキスト・教材	日本理容美容教育センター理容技術理論1・2テキスト、日本理容美容教育センター理容実習1・2テキスト、ワークブック
その他参考書	担当教員作成のポイント集及び問題集、参考資料

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～24回、4月～7月	理容用具、名称・シャンプー・ヘアデザイン(美容技術を学ぶにあたっての基礎知識と名称)・ヘアデザイン
25回～41回、10月～12月	ヘアカットティング・パーマメントウェービング・ヘアセットティング・アイアニング
42回～45回、1月・2月	ヘアカラーリング・シェーピング・エステ
46～53回、5～7月	クリニック・シャンプー・マッサージ・ヘアトリートメント
54～67回・10～12月	国家試験対策問題(過去問題を中心に国家試験の傾向と対策を行う)
68～75回、1・2月	国家試験対策問題(国家試験の傾向と対策を行う)
備考	

時間外での学習	理論あつての実技という事を、理解させ、理論内容を実技を通じてより理解を深めさせる。
講師の実務経験と授業の関係	理容師としてサロンでの実務経験で培った技術・知識を授業に合わせて伝えていくことで、イメージが付きやすく、理容室勤務の際にはスムーズに技術に入りやすくなることを目的としている。また、国家試験に対してポイントを絞った取り組み指導が行える
備考	

松本理容美容  
専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	理容実習(カット)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			理容実習			理容科	1～2年次	360時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次4月～2年次11月	時限		資格対応	国家試験			
担当教員	加藤邦美、桐山美奈・麻和真美					講師の実務経験	3年以上	
授業概要	国家試験課題でもあるカット技術を正しく理解させる							
授業方法	理論～展示～実習～理論～実習～確認テスト～確認実習～期末試験							
授業目標	思考・判断・表現		全体バランス・課題に基づく仕上がり					
	技能		基本技術 姿勢、髪の持ち方、フォームワーク、					
	関心・意欲・態度		授業出席・課題提出					
	知識・理解		施術面に対する立ち位置、落とし腰、バリカン操作					
	備考		決められた時間内に作成すること(国家試験は30分間)					
評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	確認テスト(カット手順)		25	25	25	25	100	
	確認テスト(決められた時間内での作成)		25	25	25	25	100	
	期末試験(決められた時間内で正しく巻く)		50			50	100	
	合計		100	50	50	100		
評価の表示	国家試験の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する		100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0
			5段階評価	5	4	3	2	1
テキスト・教材	国家試験課題集、理容技術理論・理容実習・理容師美容師教育センターDVD							
その他参考書	展示作品(合格ライン完成作品)カット展開図							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回～4回	ウィックの取り扱い・髪の開閉、準備や正しい姿勢、基本技術の理解を目標							
5回～10回	スタンダードカットの基本技法							
11回～21回	スタンダードカットの基本技法							
22回～30回	ロングカットによる運行手順							
31回～35回	ロングカットによる運行手順							
36回～40回	ミディアムカット 刈り込み手順 ・姿勢							
41回～45回	ミディアムカット 全体の流れ、仕上がり確認							
46回～48回	ミディアムカット 全体の流れ、仕上がり確認							
49回～100回	ミディアムカット 全頭 決められた時間内に国家試験課題を完成 衛生							
備考	技術のみでなく、衛生も試験課題のため、理解を並行して深めさせる。							
時間外での学習	髪の開閉、運行手順を廃ウィック等を利用し、回数を重ねることで、技術への理解が深まるため課題提出を行う。 反復練習を繰り返すことにより技術の習得を図る							
講師の実務経験と授業の関係	授業内ではウィックに行くが理容室では、さまざまな頭部や毛髪に合わせて技術を行うため、理容師としての経験の中で授業に合わせてフォームの入れ方を工夫していくことを伝えて、イメージが付きやすくすることで、理容室勤務の際にはスムーズに技術に入りやすくなることを目的としている。							

備考	
----	--

松本理容美容  
専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	理容実習 シェービング (国試課題)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			理容	実習		理容科	1、2年次	300時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次 9月から			資格対応	国家試験			

担当教員	加藤邦美、桐山美奈・麻和真美	講師の実務経験	3年以上
------	----------------	---------	------

授業概要	国家試験課題 シェービング技術	
授業方法	理論 → 展示 → 実習 → 実習 → 確認テスト → 実習(苦手部分克服) → 期末試験	
授業目標	思考・判断・表現	安全、正確な運行手順
	技能	シェービングレーザーによるシェービング
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出
	知識・理解	基本立ち位置、目線、レーザーの角度、方向
	備考	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・ 表現	技能	関心・意 欲・態度	知識・理解	合計(点)
		確認テスト(正確なレーザーワーク・手順の理解度)		25	25	25	25
	確認テスト(決められた時間内での正しい仕上がり)		25	25	25	25	100
	期末試験(時間内での正確な仕上がり)		50			50	100
	合計						
評価の表示	評価は学期末試験の成果に応じて100点法で評価する。						
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100~80	79~65	64~60	59~30	29~0
		5段階評定	5	4	3	2	1

テキスト・教材	国家試験課題集、理容技術理論、理容実習、実技用具一式
その他参考書	展示作品(合格ライン完成作品) 手順マニュアル(副教材として)

### 授業計画

実施回・期間	授業内容・目標
1~5回 9月	シェービング技術の目的、レーザーの扱い、運行手順を理解させる。
6~14回 10月	運行手順を理解の上、安全面に考慮しながら時間内に完成させることを意識させる。
15回~	時間に対する意識を持たせながら完成度を上げていく
	国家試験合格基準に基づく完成度、時間内での完成度にする。
備考	技術のみでなく、衛生も並行して理解させ、事故のない安定した丁寧な技術を習得させる。

時間外での学習	シェービングレーザーの運行手順を理解したうえで、立ち位置、目線等姿勢を習得できるようにさせる
講師の実務経験と授業の関係	サロンワークの中で得た技術手法を基に、理容店において人の顔に行うときの注意点(安全面、衛生面等)も伝え、ウィックで行う時との違いを明確にし、国家試験課題としてだけでなく、サロンで多く行われる技術として認識させる
備考	

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	理容実習(サロン実習・シャンプー)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			理容実習		○	理容科	1～2年次	120時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次4月～2年次11月	時限		資格対応				

担当教員	加藤邦美、桐山美奈・麻和真美・サロンオーナー					講師の実務経験	3年以上
------	------------------------	--	--	--	--	---------	------

授業概要	全ての基礎を作る前の施術であるシャンプー技術を正しく理解させ、お客様にとって気持ちよい施術を心がける						
授業方法	展示～実習～確認テスト～サロン実習～実習～確認テスト～サロン実習						
授業目標	思考・判断・表現	相モデルへの気遣いや、技術内容により、相モデルからの信頼感が得られる					
	技能	シャワーヘッドの当て方、指の強さや動かし方、技術時間配分					
	関心・意欲・態度	次の施術に合った内容で、相モデルが気持ちよく安心して任せているか					
	知識・理解	全ての技術の順番や内容に理論があり、手順書通りに行えること					
	備考	サロン実習の評価表を参考にする					

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)
		確認テスト(見返りシート)		25	25	25	25
	確認テスト(決められた時間内で仕上げる)		25	25	25	25	100
	期末試験()		25	25	25	25	100

評価の表示	準備から施術、片付けのジャッジと、相モデルの見返りシートを参考にし100点満点より算出し、絶対評価にて表示する						
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0
		5段階評定	5	4	3	2	1

テキスト・教材	理容技術理論・理容実習・理容師美容師教育センターDVD						
その他参考書	実務経験のある教員作成による手順書・接客に関する手引き						

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～4回 4月	クロス掛け・ブラッシング・接客(ご案内の仕方)・ヘッドマッサージ
5～10回 5月	すすぎ・シャンプーイング(スタンドシャンプー)手順
11～21回 6・7月	シャンプーイング(サイドシャンプー)・ブロードライスタイリング
22～30回 8～12月	シャンプーイング(ヘアカラー後のシャンプー)
31～36回 1月	サロン実習
37回～40回 4月	シャンプーイング(ヘッドスパ)
41回～56回 5月	サロン実習
41回～45回 6月	シャンプーイング(様々な場面のシャンプーイング)・ヘアアレンジなどの仕上げ
46回～65回 7月	ご案内～シャンプーイング～ブロードライスタイリングまたはヘアアレンジ～お見送り(相モデル)
66回～79回 10月	ご案内～シャンプーイング～ブロードライスタイリングまたはヘアアレンジ～お見送り(相モデル)
80回～90回12月	ご案内～シャンプーイング～ブロードライスタイリングまたはヘアアレンジ～お見送り(相モデル)
備考	

時間外での学習	シャンプー技術は練習回数が重要となるため、居残り練習にて一人でも多くのモデル体験をさせる。
講師の実務経験と授業の関係	理容師の経験から、様々な理容技術がスムーズに行えるシャンプー技術について展示講習をしつつ、授業を行う。より快適な気分を味わっていただけるお客様にとって気持ちの良い技術を心がけさせるとともに、体の位置や姿勢などに注意し技術者自身が腰痛などを起こさないような指導を行うことを目的とする。

備考	
----	--

松本理容美容  
専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	理容実習 ネイル		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			理容実習			理容科	1～2年次	30時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次9月～12月	時限		資格対応	ネイリスト検定			

担当教員	加藤邦美、桐山美奈、麻和真美・外部講師				講師の実務経験	3年以上
------	---------------------	--	--	--	---------	------

授業概要	サロン需要の高まりがある、ネイル、ハンドケア技術を習得	
授業方法	理論～展示～実習～検定 ～応用技術	
授業目標	思考・判断・表現	ケア、ネイルのバランス
	技能	ネイルケア、カラーリング
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出
	知識・理解	爪の構造、衛生上の扱い、施術手順
	備考	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
		確認テスト(検定の流れの理解)		25	25	25	25	100	
	検定試験		25	25	25	25	100		
	期末試験(決められた時間内で正しく作成)		50			50	100		
	合計								
評価の表示	検定合格基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する								
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する		100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
			5段階評価	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	ネイル検定用テキスト、ネイル用用具一式 理容理論、理容実習
その他参考書	

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～4回	爪の構造、衛生上の取り扱い、禁忌事項
5～7回	ハンドケア、ネイルケア、カラーリング技術
6～10回	時間内でのケア、カラーリング
備考	メンズグルーミングサロンの需要も増加しているため、ネイルケアを中心に理解を深めさせる。

時間外での学習	練習の回数を重ねることで、ケア、カラーリングの技術向上、安定化。
講師の実務経験と授業の関係	サロンでの実績を考慮し、理容サロンにおける男性のハンドケア、ネイルケア需要に対応できる、必要技術であることを技術展示を行いながら、実例を挙げていく。また、ネイル資格を取得することで理容師としての付加価値をつける。
備考	

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	理容実習 (パーマ・セットブロー・アイロン技術)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			理容実習			理容科	1～2年次	60時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次9月～2年次7月	時限		資格対応				

担当教員	加藤邦美、桐山美奈、麻和真美	講師の実務経験	3年以上
------	----------------	---------	------

授業概要	より美しいヘアスタイルにするため、カット技術後のヘアセットイング・パーマ・アイアニング技術の習得。		
授業方法	理論～展示～実習～確認テスト～確認実習～期末試験		
授業目標	思考・判断・表現	サロンで役立つ技術の基礎となることを理解	
	技能	パーマ技術・セット技術の理解。応用技術の把握。	
	関心・意欲・態度	危険性がなく、安定した技術を行なえているか。	
	知識・理解	全ての技術の順番や内容に理論があり、手順書通りに行えること	
	備考	特殊技術のため、基本をしっかりと身に付けた上で、習得させる。	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
		確認テスト(手技の確認)		25	25	25	25	100
	確認テスト(決められた時間内流れ)		25	25	25	25	100	
	期末試験(決められた時間内流れ)		50			50	100	
	合計							
評価の表示	各技術、手順・姿勢・仕上がりを100点満点に算出し絶対評価にする							
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評価	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	理容理論、理容実習、ワインディング用具・アイアニング用具
その他参考書	技術詳細レジメ

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回～4回	ウィッグの取り扱い・基本巻き方・ブロッキング・準備や正しい姿勢・基本技術の習得
5回～10回	Cライン全頭巻き 基本技術を活かし、頭の丸みに合わせて巻く事を目標とする。タイムトライ
11回～15回	パーマ剤の取り扱い方法・注意事項・ドライヤー・セットブラシ・アイロン運行方法・姿勢・手順
16回～18回	相モデルによる作品作り
備考	相モデルで技術を行うことにより、用剤の使用法・注意事項を身に付けさせることが出来る。

時間外での学習	練習を重ねることで、正しいワインディング技術と理解が深まるため課題提出を行う。 特殊技術であるアイアニング・実際にパーマ剤を使用することでサロン技術への理解を深めさせるため、居残り練習を行う。
講師の実務経験と授業の関係	理容師の経験と実績の中で、必須の技術であるパーマ技術を応用を含め、パーマ技術・セット技術・アイアニング技術の必要性の意義を伝える
備考	

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	エステ（フェイシャル）（理容実習）		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			理容実習			理容科	1・2年次	30時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1・2年次	時限		資格対応				

担当教員	ビューティービジネス科教員/加藤邦美・桐山美奈、麻和真美	講師の実務経験	3年以上
------	------------------------------	---------	------

授業概要	シェービング技術の付加価値としてのフェイシャルマッサージ技術		
授業方法	理論～展示～実習～確認テスト～確認実習～期末試験		
授業目標	思考・判断・表現	相モデルへの気遣いや、技術内容により、相モデルからの信頼感が得られる	
	技能	マッサージ手技の手順、手指の強さや動かし方、技術時間配分	
	関心・意欲・態度	シェービング施術に伴った内容で、相モデルが気持ちよく安心して任せているか	
	知識・理解	全ての技術の順番や内容に理論があり、手順書通りに行えること	
	備考	サロン現場でも需要の高まっているエステ技術を習得させる	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	確認テスト			25	25	25	25	100
確認テスト			25	25	25	25	100	
期末試験			50			50	100	
合計								
評価の表示	マッサージの手技・流れ、気遣いをシェービング技術とともに細分化し、100点満点に算出し絶対評価にする							
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評定	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	理容理論、理容実習、フェイシャルケア化粧品、手技確認用ウィック
その他参考書	マッサージプロセス用プリント

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回～4回	顔面処置理論、手技確認
5回～10回	相モデルによる実習
11回	フェイシャル確認試験
備考	サロンに役立つ技術として、学びを深めさせる

時間外での学習	練習回数を重ね正しい技術と理解を深める為、課題提出を行う。
講師の実務経験と授業の関係	授業内ではクラスメイト同士が相モデル（同年代）で実習を行うが、現場では幅広い年齢層のお客様や、肌質・肌タイプに合わせた技術を行うため、理容師としての経験を授業に合わせて伝えていくことでイメージが付きやすく、就職後スムーズに技術に入りやすくなることを目的としている。
備考	サロンにおけるシェービング技術と併用によるスキンケア・マッサージの必要性の意義を伝える

松本理容美容  
学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	芸術(色彩・デザイン)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			理容選択必修科目	一般教養		理容科	1~2年次	60時間
必修・選択	選択必修	その他履修条件						
開講期	1年次5月~2年次9月	時限		資格対応	パーソナルカラー検定			

担当教員	平野 西川	講師の実務経験	3年以上
------	-------	---------	------

授業概要	色彩感覚、デザイン感覚を養う		
授業方法	パーソナルカラー検定用、色彩理論 ・ 色彩バランスカラー制作 ・ ヘアデザイン画基礎から応用		
授業目標	思考・判断・表現	色彩感覚、デザイン感覚の習得	
	技能	色彩知識、デッサン等作品制作	
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出	
	知識・理解	色彩における知識、ヘアデザインにおけるバランス	
	備考		

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)
		確認テスト(パーソナルカラー検定に基)		25	25	25	25
	検試験		25	25	25	25	100
	作品提出		25	25	25	25	100
	合計						
評価の表示	パーソナルカラー検定における知識、またデザイン画、色彩デザインカラー作品の仕上がりを相対的に判断し、100点法に当てはめる。						
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100~80	79~65	64~60	59~30	29~0
		5段階評定	5	4	3	2	1

テキスト・教材	パーソナル検定テキスト、デザイン画用画材等
その他参考書	色相環等拡大パネル、デザイン画ベース用プリント

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回~10回	パーソナル検定対策授業
11回~15回	色彩デザインカラー作品制作
16回~20回	ヘアデザイン画基礎
21回~30回	ヘアデザイン画応用から、トータルデザイン作成
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授業の関係	デザイン業の経験を活かし、理美容師としてのヘアデザインバランス、色彩感覚が身につくよう、クリエイターとしての立場から、アドバイス提言を行う。

備考	
----	--

松本理容美容  
専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	健康運動学		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			理容選択必修科	一般教養		理容科	1～2年次	30時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次4月～2年次2月	時限		資格対応				

担当教員	谷嶋/山田			講師の実務経験	3年以上
------	-------	--	--	---------	------

授業概要	体幹を鍛え柔軟性を付け体力アップを図る。理美容師として意識すべき疾病への対策、栄養学	
授業方法	体幹ストレッチを入れた有酸素運動、健康保持のための疾病予防法	
授業目標	思考・判断・表現	体力維持法、疾病予防知識と栄養バランス知識の習得
	技能	体幹ストレッチ柔軟性、疾病予防対策
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出
	知識・理解	体幹力アップ法、疾病に対する詳細
	備考	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
		体幹測定等		25	25	25	25	100
	課題レポート		25		25	50	100	
	合計							
評価の表示	授業中における、体幹測定及び健康学レポート内容における総合的判断により、100点法に置き換え、評価する。							
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評定	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	疾病対策、栄養学における資料プリント
その他参考書	

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～5回	柔軟性を作るためのストレッチ
6～12回	音楽に合わせた体幹トレーニング
13～24回	トレーニングボール等用いた体幹トレーニング
25～30回	理美容師としての病気にかからないための基礎知識、栄養学
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授業の関係	スポーツインストラクターから、理美容師の立ち仕事における疲労軽減法や、腰痛対策につながる体幹ストレッチ等を学ぶ。また、感染症研究の立場から、疾病予防の対策や健康保持のための栄養バランス食生活へのアドバイスをもらう
備考	

松本理容美容  
専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	コミュニケーション		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			理容選択必修科目		○	理容科	1～2年次	60時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次4月～2年次2月	時限		資格対応	サービス接遇検定3級			

担当教員	田中／宮崎／金	講師の実務経験	3年以上
------	---------	---------	------

授業概要	接客業における、対人コミュニケーション力アップ、自己アピールプレゼン力を身につける		
授業方法	講義 ～ レポート提出 ～検定		
授業目標	思考・判断・表現	コミュニケーション力、スキルの向上	
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出	
	知識・理解	レポート提出、検定	
	備考		

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
		課題レポート		25	25	50	100	
	検定対策		25	25	50	100		
	プレゼンカ		25	25	50	100		
						100		
	合計		100	100	200			

評価の表示	国家試験の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評定	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	心理学テキスト、サービス接遇テキスト 検定対策問題
その他参考書	心理テスト他

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～15回	心理学、対人コミュニケーション対策、カウンセリング
16～25回	サービス接遇検定対策
26～30回	自己アピール、プレゼンテーション法
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授業の関係	理容業は接客業における円滑な対人コミュニケーションの方法、また、サロンにおける、クレーム対応、プレゼンテーション力を上げる必要があり、そのための方法を他分野に精通しているコミュニケーション講師から学ぶ
備考	

PH / 7	
--------	--

松本理容美容  
専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	社会福祉学		科目種	区分	企業等連携		配当年次	単位(単位時間)
			理容選択必修科	一般教養		理容科	2年次	30時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	2年次7月	時限		資格対応	準福祉理美容士			

担当教員	小口/丸山（看護師・介護講師）/齋藤（介護士・介護講師）			講師の実務経験	3年以上
------	------------------------------	--	--	---------	------

授業概要	高齢者、障害者に対する理解を深め、訪問理美容における知識習得と、準福祉理美容士習得を目指す				
授業方法	理論～実習～検定				
授業目標	思考・判断・表現	高齢者、障害者に対する理解、対応			
	技能	介助方法、施術方法			
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出			
	知識・理解	レポート提出、検定試験			
	備考				

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)
		検定プレテスト		25	25	25	25
	レポート		25	25	25	25	100
			50			50	100
	合計						

評価の表示	準福祉理美容士検定試験に基づき100点満点より算出し絶対評価をする						
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0
		5段階評価	5	4	3	2	1

テキスト・教材	テキスト、車いす、高齢者疑似体験セット、障害者体験用狂い
その他参考書	DVD等

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回目	福祉理美容士とは、視覚障害対応
2回目	介護について（保険制度、疾病等）
3回目	介護実習（車いす移動、ベット介助、視覚障害誘導）
4回目	高齢者疑似体験、寝たきりシャンプー、カット実習
5回目	ボランティア（高齢者施設におけるハンドケア）
6回目	介護理論（衛生面）試験対策
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授業の関係	訪問理美容の需要が増えてる中で、介護技術、対応を介護現場の講師から注意すべき、病気、身体の状況、介助テクニックを具体的にかつ実践的に学び、将来の仕事の幅を広げていけるようにする

備考	
----	--

松本理容美容専  
門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	着付け / (選択着付け・カット)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			選択必修科目	専門教育		理容科	1年次	60時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次9月～12月	時限		資格対応	山野流着装 初中伝			

担当教員	着付け資格有美容科職員 / 山野流講師	講師の実務経験	3年以上
------	---------------------	---------	------

授業概要	着付けの基礎技術を理解し、身に着ける		
授業方法	理論 ～ 実習 ～ 査定		
授業目標	思考・判断・表現	着付けの際、相手への気使い、心配り	
	技能	自分でできる、相手に着つける着付け技術	
	関心・意欲・態度	授業出席	
	知識・理解	筆記試験・査定	
	備考		

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・	技能	関心・意	知識・理解	合計(点)	
	筆記テスト(着付け知識)		25		25	50	100	
	査定		25	25	25	25	100	
			50					
	合計							
評価の表示	基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評定	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	
その他参考書	

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回目	着付けの理論、小物準備
2回目	一人で着る着付け(浴衣)
3回目	一人で着る着付け(小紋)
4回目	一人で着る着付け(小紋)
5回目	相手に着つける着付け(振袖)
6回目	相手に着つける着付け(振袖)
7回目	相手に着つける着付け(振袖)
8回目	相手に着つける着付け(留めそで)
9回目	相手に着つける着付け(留めそで)
10回目	相手に着つける着付け(留めそで)
11回目	相手に着つける着付け(留めそで)
12回目	査定
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授	サロンにおける着付け技術を、着付けの現場で働く着付け講師から、着物の種類、着付けのテクニックを含めお客様に対応のボイ

業の関係	ントも入れながら学び技術習得をする
備考	

松本理容美容専門  
門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	カット／（選択着付け・カット）		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			選択必修科目	専門教育		理容科	1年次	60時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次9月～12月	時限			資格対応			

担当教員	選任教師 / peek-a-booサロン講師	講師の実務経験	3年以上
------	------------------------	---------	------

授業概要	サロンにおけるデザインカット学ぶ		
授業方法	理論 ～ 展示 ～ 実習		
授業目標	思考・判断・表現	スタイルの違い、シザーズ・コームワークを理解	
	技能	基本技術 姿勢、シザーズの持ち方、コームワーク、	
	関心・意欲・態度	出席・作品提出	
	知識・理解	デザインに伴ったパネルの引き出し等基本カット技術を理解習得	
備考			

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	作品提出（スタイルごと）		25	25	25	25	100	
	最終作品		25	25	25	25	100	
	合計		50			50	100	
評価の表示	作品の基準デザインの完成度に応じて100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する		100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0
			5段階評価	5	4	3	2	1

テキスト・教材	peek-a-booカットテキスト、カット用具一式、カットウィック
その他参考書	展示作品（スタイル別完成作品）

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回目	理論、シザーズの持ち方、コームワーク、カット姿勢、立ち位置
2回目	ワンレングス ・ プロー
3回目	復習
4回目	グラデーションカット1
5回目	復習
6回目	グラデーションカット2
7回目	復習
8回目	レイヤーカット1
9回目	復習
10回目	レイヤーカット2
11回目	復習
12回目	最終作品制作

時間外での学習	
講師の実務経験と	サロン講師による実際にお客様に施術している生の現場の技術を直接学び、授業に活かす。

授業の関係	サロン講師による実際にお客様に施術している生の現場の技術を直接学び、付帯にはなっていない。
備考	

松本理容美容専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	カット (サロン講師)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			選択必修科目	専門教育	○	理容科	1、2年次	120時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年10月～2年次11月	時限		資格対応				

担当教員	サロン講師 / 加藤邦美、桐山美奈、麻和真美	講師の実務経験	3年以上
------	------------------------	---------	------

授業概要	サロンにおけるデザインカット (メンズ・レディース) 学ぶ		
授業方法	理論 ～ 展示 ～ 実習		
授業目標	思考・判断・表現	スタイルの違い、シザーズ・コムワークを理解	
	技能	基本技術 姿勢、シザーズの持ち方、コムワーク、	
	関心・意欲・態度	出席・作品提出	
	知識・理解	デザインに伴ったパネルの引き出し等基本カット技術を理解習得	
	備考	実際にサロン技術を学ぶことで、より実践的な技術を身に付けさせる。	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	確認テスト			25	25	25	25	100
確認テスト			25	25	25	25	100	
確認テスト			50			50	100	
合計								

評価の表示 作品の基準デザインの完成度に応じて100点満点より算出し、絶対評価にて表示する

評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0
		5段階評価	5	4	3	2	1

テキスト・教材	サロンスタイルごとのレジメプリント
その他参考書	展示作品 (スタイル別完成作品)

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回	メンズサロンカット技術 グラデーションスタイルをベースとした、セニングカット・スタイリング技法を学ぶ
2回	メンズサロンカット技術 レイヤースタイルをベースとした、アレンジ。スタイリング技法を学ぶ
3回	レディースサロンカット技術 グラデーションスタイルをベースとし、ヘアカラーを組み合わせたスタイルを作成
4回	レディースサロンカット技術 レイヤースタイルをベースとし、ヘアカラーを組み合わせたスタイルを作成
5回	セット技術・スタイリング剤の種類・アイロン技術の基本。カット後のヘアスタイリングの実際を習得
6回	セット技術・スタイリング剤の種類・アイロン技術の基本。カット後のヘアスタイリングの実際を習得
7回	作品提出。学んだ技術を活かし、メンズ・レディースカットの作品を創り上げる
8回	作品提出。学んだ技術を活かし、メンズ・レディースカットの作品を創り上げる

時間外での学習	サロンスタイルを習得するため、反復練習を行う。
講師の実務経験と授業の関係	サロン講師による実際にお客様に施術している技術を直接学び、将来につなげていく
備考	サロンオーナーから実践的な技術を学ぶことにより、自分の目指している職業のスキル・やりがいを再確認させる。

松本理容美容専門  
 門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	ヘアカラー (カラーリスト)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			選択必修科目	専門教育	○	理容科	1、2年次	60時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次9月～2年次11月	時限	資格対応	ヘアカラーリストシグルスター				

担当教員	サロン講師 / 専任教師	講師の実務経験	3年以上
------	--------------	---------	------

授業概要	ヘアカラーにおける知識、塗布技術を習得	
授業方法	理論～展示～実習～検定～実習～最終テスト	
授業目標	思考・判断・表現	カラーにおける知識、施術手順
	技能	カラー施術のブロッキング、手順
	関心・意欲・態度	授業出席
	知識・理解	カラーにおける知識、ブロッキング等カラーにおけるスタイルに合わせたパターン
	備考	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)
	検定			25	25	25	25
最終テスト (ハーフヘッドウィーピング)			25	25	25	25	100
合計							

評価の表示	検定の基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する						
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0
		5段階評価	5	4	3	2	1

テキスト・教材	カラーテキスト、カラー用具一式
その他参考書	展示作品、ブロッキング図

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1～3回	カラー理論、基本塗布テクニック (ワンメイク、ゼロテク)
4～5回	ハイライトテクニック、酸性カラー塗布
6～8回	検定対策
9回	検定
10～11回	相モデル実習
12～15回	ハーフヘッドウィーピング
16回	ハーフヘッドウィーピングテスト
備考	

時間外での学習	
講師の実務経験と授業の関係	サロンの施術の需要幅の多いヘアカラーの技術を、サロンワークのテクニックを取り入れながらヘアカラーリストとしての経験に基づき、技術習得をさせていく

備考	
----	--

松本理容美容専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	スカルプケア		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			選択必修科目	専門教育	○	理容科	1.2年次	60時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次4月～10月	時限		資格対応	スパニスト修了書,ヘアアドバイザー			

担当教員	サロン講師 / 加藤邦美・桐山美奈・麻和真美	講師の実務経験	3年以上
------	------------------------	---------	------

授業概要	シャンプー後の育毛技術・リラクゼーション技術であるヘッドスパの習得		
授業方法	理論 ～ 展示 ～ 実習		
授業目標	思考・判断・表現	サロンにおいて需要の高いヘッドスパ技術を習得	
	技能	基本技術・姿勢・用剤・相モデル実習	
	関心・意欲・態度	出席・スパニスト修了書取得を目指す	
	知識・理解	サロン技術の習得	
	備考	実際にサロン技術を学ぶ事で、より実践的な技術を身に付けさせる。	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
	確認テスト		25	25	25	25	100		
	確認テスト		25	25	25	25	100		
	期末試験		50			50	100		
	合計								
評価の表示	手技の評価基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する								
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0		
		5段階評価	5	4	3	2	1		

テキスト・教材	スパニストレジメ・シャンプー用具一式
その他参考書	

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回	学科講習・ヘッドスパ基本姿勢・順序・相モデル実習
2回	ヘッドスパ基本姿勢・順序・相モデル実習
3回	ヘッドスパ基本姿勢・順序・相モデル実習
4回	スパニスト修了確認テスト
備考	

時間外での学習	スパニスト修了書を取得するため、反復練習を相モデルにて行う
講師の実務経験と授業の関係	サロン講師による実際にお客様に施術している技術を直接学び、将来につなげていく
備考	サロン技術は、必ず実践的な技術を学ぶ事により、自分の目指している職業の資力を、さらに向上させる

備考	リノベーションから実践的な技術を学ぶことにより、日々の仕事に活かせる職業の楽しさと誇りを再確認させる。
----	---

松本理容美容専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	ネイル (トータルテクニック)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			年次	専門教育	○	理容科	1年次	30時間
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次9月～12月	時限		資格対応	INAネイルA検定			

担当教員	外部ネイル講師 / 専任教師	講師の実務経験	3年以上
------	----------------	---------	------

授業概要	サロン需要の高まりがある、ネイル、ハンドケア技術を習得		
授業方法	理論～展示～実習～検定 ～応用技術		
授業目標	思考・判断・表現	ケア、ネイルのバランス	
	技能	ネイルケア、カラーリング、ジェルネイル	
	関心・意欲・態度	授業出席・課題提出	
	知識・理解	爪の構造、衛生上の扱い、施術手順	
	備考		

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・	技能	関心・意	知識・理解	合計(点)	
		確認テスト (検定の流れの理解)		25	25	25	25	100
	検定試験		25	25	25	25	100	
	期末試験(決められた時間内で正しく作成)		50			50	100	
	合計							
評価の表示	検定合格基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
評価の特記事項	評価は5段階評価にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評価	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	ネイル検定用テキスト、ネイル用用具一式 理容理論、理容実習
その他参考書	

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回	爪の構造、衛生上の取り扱い、禁忌事項
2～5回	ハンドケア、ネイルケア、カラーリング技術検定対策
6回	検定
7～11回	デザインネイル
備考	

時間外での学習	練習の回数を重ねることで、ケア、カラーリングの技術向上、安定化。
講師の実務経験と授業の関係	ネイリストの実績を生かし、サロンにおける男性のハンドケア、ネイルケア需要に対応できる、必要技術であることを技術展示を行いながら、実例を挙げていく。また、理容師としての付加価値をつける。
備考	

松本理容美容専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	コンテスト対策 (トータルテクニック)		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
	選択必修科目	専門教育	○	理容科	1、2年次	60時間		
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	1年次～2年次	時限		資格対応				

担当教員	サロン講師 / 加藤邦美・桐山美奈、麻和真美	講師の実務経験	3年以上
------	------------------------	---------	------

授業概要	やりがいづくりの一環として、コンテスト参加するための応用技術を習得する		
授業方法	理論 ～ 展示 ～ 実習		
授業目標	思考・判断・表現	全国大会参加に向けて、基本技術を活かしたコンテスト技術の習得	
	技能	クラシカルバック・フリースタイル・ミディアムカット技術の基本・運行・姿勢	
	関心・意欲・態度	地区大会を突破し全国大会出場	
	知識・理解	応用技術の習得 ドライヤー・ブラシワーク・カラーリング技術の理解習得	
	備考	コンテストにおいて結果を出すため、作品へのこだわり	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	確認テスト		25	25	25	25	100	
	確認テスト		25	25	25	25	100	
	期末試験		50			50	100	
	合計							
評価の表示	手技の評価基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する							
評価の特記事項	評価は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～30	29～0	
		5段階評定	5	4	3	2	1	

テキスト・教材	クラシカルバック・フリースタイルレジメ・ウィッグ
その他参考書	展示作品(スタイル完成作品)・全国大会優勝者作品

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回～2回	クラシカルバック作品技術の習得 ドライヤーのあて方・ブラシワークの基本・姿勢を学ぶ
3回～4回	クラシカルバック作品技術の習得 ドライヤーのあて方・ブラシワークの基本・姿勢を学ぶ
5回～6回	ミディアムカット作品技術の習得 デザイン・ヘアカラー方法・セット技術の基本を習得
7回～8回	ミディアムカット作品技術の習得 デザイン・ヘアカラー方法・セット技術の基本を習得
9回～10回	世界チャンピオンの技術展示 コンテスト用作品を作成
備考	世界的レベルの技術を実際に目にし、指導してもらい、自分の作品へのこだわりを持たせる。

時間外での学習	作品レベルを向上させるため、毎日居残り練習を行う。作品へのこだわりを持ち、完成度を上げる。
講師の実務経験と	世界チャンピオンの高い技術にふれることにより、刺激を受け、より作品へのこだわりを高めることが出来る。 理容師としての経験を活かし、コンテストに対する考え、取り組み方を伝える事により、技術に対するこだわりや、練習を重ね

授業の関係	在学中としての経験と加わり、コンテストに力をつけるため、校外活動も積極的に行い、技術に対する自信と、練習と準備の根気を身に付けることができる。
備考	コンテストに参加する事により、結果を出すためには経過（練習の積み重ね）が重要であることを認識させる。

松本理容美容  
専門学校

## 授業計画(シラバス)

授業科目名	トータルテクニック		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位(単位時間)
			選択必修科目		○	理容科	1.2年次	60時間
必修・選択	選択必須	その他履修条件						
開講期	1年次4月～7月	時限		資格対応				

担当教員	加藤、桐山、麻和	講師の実務経験	年以上	3
------	----------	---------	-----	---

授業方法	理論～展示～実習～理論～実習～確認テスト	
授業目標	思考・判断・表現	接客・応用力
	技能	施術中の作業技術、施術中の作業姿勢、仕上がり審査、評価表
	関心・意欲・態度	授業態度、積極性
	知識・理解	作業手順
	備考	

評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
		確認テスト		25	25	25	25	100	
	評価表		25	25	25	25	100		
	合計								
評価の表示	基準に沿って100点満点より算出し、絶対評価にて表示する								
評価の特記事項	評定は5段階評定にて表示する	100点法	100～80	79～65	64～60	59～21	20～0		
		5段階評定	5	4	3	2	1		

テキスト・教材	・カットウィック・クランプ・カット道具
その他参考書	展示作品

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1回～4回	応用カットでレディースサロンスタイルの作成ができる（ウィックのみ）
5回～10回	レディースシャンプブロー・ヘアアレンジメントをスムーズに行うことができる
11回～21回	ヘッドスパの知識と技術が理解できる
22回～30回	シャンプブローや接客によって相モデルに満足していただけることができる
備考	

時間外での学習	
---------	--

講師の実務経験と 授業の関係	カット技術以外は、相モデルで行う応用実習のため、理容師経験を活かし様々な状態のモデルの髪質や骨格を把握し、最適な施術ができる指導が行える。また、カット技術は基本技術をレディーススタイルに応用するため、サロンでの経験の中での情報を含めて指導することができる。
備考	